

下原の候補地における現地視察結果とそれを踏まえた環境省の考え

資料2-2

	大和町の 現地での説明	現地視察結果	現地視察を踏まえた 環境省の考え
A. 地すべり	<ul style="list-style-type: none"> <li>候補地の地盤は軟弱との説明。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>選定手法において定めた既存データを用いて、土砂災害の危険性の高い箇所を除外。</li> <li>候補地の表面だけではなく、地下の地質構造についても把握する必要があり、このために詳細調査が必要。</li> <li>候補地内の詳細調査においては、地質・地盤性状(地質構成・構造、地質毎の土砂・岩盤区分、地下水の通りやすさ)、地下水性状(地下水位・水質、地下水の流向)の確認のため、候補地における調査ボーリング、弾性波探査、標準貫入試験、現場透水試験等が必要。</li> <li>候補地周辺については、詳細調査で地形・地質踏査が必要。</li> </ul>
B. 演習場	<ul style="list-style-type: none"> <li>候補地は実弾を使った演習の着弾地が近く、跳弾等の事故の可能性があるとの説明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像により演習の様子や演習時騒音等を確認。</li> <li>北側の山を隔てて演習場が所在することについて確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際の演習時の振動等について調査が必要。</li> <li>防衛省によれば演習では誤射等のないように安全確保の処置を実施。</li> <li>万が一の災害等に備えて作成する緊急時マニュアルや訓練を通じての対処も行う。</li> </ul>

	大和町の 現地での説明	現地視察結果	現地視察を踏まえた 環境省の考え
C. 埋蔵文化財	<ul style="list-style-type: none"> <li>下原遺跡が候補地内に存在との説明。</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>史跡・名勝・天然記念物以外の文化財は除外していないため、詳細調査で留意すべき必要な手続きを確認。</li> <li>必要な範囲において埋蔵文化財に影響を及ぼさないよう施設の配置の検討が必要。</li> </ul>
D. 動植物、自然度	<ul style="list-style-type: none"> <li>一帯には希少種であるオオバヤナギの群生地があるとの説明。</li> <li>自然度が4とは考えられず、夏に調査を行い、評価を見直すべきとの説明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>候補地は、外周には木が生えているが、大部分は草原であることについて確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終候補地について動植物調査(文献、ヒアリングを基本とする)を実施し、施工時における配慮事項について検討、整理が必要。</li> <li>動植物調査の一部について先行して詳細調査と同時期に開始。</li> <li>候補地には植林や二次林部分もあるが、自然度4の部分で必要面積は確保可能。</li> </ul>

	大和町の 現地での説明	現地視察結果	現地視察を踏まえた 環境省の考え
E. アクセス道 路	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクセス道路が一本であり、通学路等になっているとの説明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>車中から、アクセス道路の状況及び周辺の小学校の概ねの位置を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運搬時には飛散・流出対策を実施するとともに、時間帯や通学通園時間帯をできるだけ避けることにより安全を確保。このため、道路状況や周辺施設の調査が必要。</li> </ul>
F. 水源への影 響	<ul style="list-style-type: none"> <li>候補地は河川に近接しており、流域の農業用水、色麻町や演習場の水道水源として使われていることも考慮すべきとの説明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>嘉太神ダムや色麻町、演習場の水道水源の方向、距離感について確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水源に影響を及ぼさないように配慮することは重要。水を排出しない遮断型構造とする。モニタリングも徹底。</li> <li>その上で、水源との近接状況(取水点からの距離)を1つの評価項目として優先順位付けを実施。</li> <li>詳細調査では、表流水や地下水の流量や水質の測定を実施。</li> </ul>